

IV 愛知県図書館の歩み

昭和 27 年 (1952 年) 4 月	講和記念事業文化施設基本計画樹立委員会設置
昭和 34 年 (1959 年) 4 月	愛知県文化会館愛知図書館開館
平成 3 年 (1991 年) 3 月	愛知県文化会館愛知図書館閉館
平成 3 年 (1991 年) 4 月	愛知芸術文化センター愛知県図書館開館
平成 6 年 (1994 年) 4 月	宅配便による市町村図書館との間の資料搬送を開始
平成 11 年 (1999 年) 3 月	特許公報類地方閲覧所の指定解除
平成 12 年 (2000 年) 3 月	移動図書館 (ブックモバイル) の廃止と貸出文庫の開始 (4 月)
平成 13 年 (2001 年) 3 月	インターネット蔵書検索の公開
平成 14 年 (2002 年) 4 月	A V 資料の貸出開始、図書の貸出を 3 冊 15 日から 6 冊 22 日に変更
平成 15 年 (2003 年) 1 月	県内公共図書館横断検索システム (「愛蔵くん」) の公開
平成 17 年 (2005 年) 3 月	貸出返却業務の 1 階カウンターへの集中化とレファレンス体制の強化、 ビジネス情報コーナー、ティーンズコーナーの設置
平成 18 年 (2006 年) 3 月	多文化サービスコーナーの設置

V 平成 20 年度の主要な事業動向

1 来館者サービスの状況

(1) 入館者、貸出、レファレンスサービス等の状況

前年度に引き続き、入館者数が増加した。開館日は、昨年度と同じ 282 日だが、入館者数は前年比 8% 増の 744,846 人 (前年度 688,915 人) と高い伸びを示している。

個人貸出も、図書 422,567 冊 (前年比 109%) A V 資料 71,830 点 (同 112%) と数字を伸ばしている。資料費激減の影響もあり、11 年度以降長期に渡って利用の低迷が続いていたが、18 年度からの資料費の増額や館内サービスの改善、企画展示・講演会・図書館探検ツアーなどの県図書館を知っていただくための活動の充実により、図書館利用が順調に回復基調にあることがわかる。特に資料の充実については、20 年度来館者アンケートでも、「本や雑誌などの量・種類」に満足・どちらかといえば満足との回答が 83% と、前年度アンケートの 72% から 11 ポイントも増加しており、資料の充実による魅力ある書架づくりが強く求められていることが読み取れる。

レファレンスサービスの件数は、15 年度以来 5 年連続で増え続けてきたが、35,755 件と前年度 (35,756 件) とほぼ同数にとどまった。レファレンスは特に重点をおいて取り組むサービスとして位置付けており、これからは件数とともにその内容の充実にも努める必要がある。

(2) インターネットを利用したサービス

インターネットによる貸出中図書予約、利用状況照会のサービスの利用者 (パスワード発行数) は、20 年度末で累計 4,386 人になった。オンラインでの予約件数は 50% 増の 7,620 件で、予約全体の 47% を占めるに至った。カウンターでの予約も 4% 増加しており、予約全体で 21% 増と大きな伸びを示している。

ホームページの閲覧件数は 8% 増、携帯サイトの閲覧件数は 36% 増といずれも増加しているが、蔵書検索ページは 3% 減、横断検索ページは 2% 減とサービス開始以降初めて減少した。蔵書検索ページは、携帯からの検索が多くなったため、横断検索ページは、いくつかの市町村立図書館がシステム更新に伴い、検索できない期間があったためと思われる。

(3) 児童に対するサービス

利用者の関心を高めるために、新着図書やおすすめの図書の別置や、学校、食べ物、宇宙など 2 ヶ月ご

とにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行ったほか、新着図書を紹介する「新しく入った本」(月刊)、おすすめ本を紹介する「児童室だより」(季刊)を発行した。おはなし会は、午前を幼児向け、午後を小学生向けとして、年間22日44回行った。ほかに夏休み中のイベントとして、8月5日と6日に、実験、工作を取り入れて本を紹介する夏のおたのしみ会おはなし会を行った。児童図書貸出冊数は、前年度より8%増の79,623冊で、特に紙芝居の貸出が好調であった。

(4) 障害者に対するサービス

視覚障害者への対面朗読の延べ利用者数は264人、対応した朗読者数は180人、朗読時間は394.2時間で、順調に利用された。視覚障害者資料の貸出は1,309タイトルで、前年に比べ僅かに減少したが、他館からの借受けによる貸出は1,633タイトルで、21%の増加であった。作成した録音図書は、カセットテープ20タイトル、DAISY10タイトルであった。また、『視覚障害者資料室新着図書案内』第2号を発行した。

20年度は、朗読協力員養成講座を11年ぶりに実施した。51人の応募があり、選考の結果15人が受講し、全員が朗読協力員として登録された。

心身障害者への郵送貸出は、利用者数191人(前年比135%)、貸出冊数604冊(同139%)であった。

(5) 各コーナーの状況

ア 地域資料コーナー

地域資料コーナーは、愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政刊行物、その他愛知県に関する資料の幅広い収集を目指しており、20年度末現在、図書62,097冊、雑誌1,123タイトルを所蔵している。20年度には、貴重書庫で保存している明治から昭和初期にかけての愛知県関係の絵はがきをデジタルデータ化し、ホームページで公開した。

イ ティーンズコーナー

当コーナーを設置してから、4年が経過した。コーナーの図書約5,500冊のうち、平均20%が常に貸出され、活発に利用されている。20年3月からは企画「てこぼん」を始めた。「ティーンズコーナーポイントGet大作戦！」の略で、おすすめ本の紹介カードを書くポイントがたまり、図書館グッズと交換できるという利用者参加型の企画である。9月30日まで行い、期間中約170枚の応募があった。

ウ 多文化サービスコーナー

多文化サービスコーナーは、本格運用から3年を経過し、利用も増えてきた。図書資料は、需要の多い実用書、最新の文学を中心に中国語・ハングル・ポルトガル語の新刊書を購入し、20年度末現在の資料数は約3,150冊となっている。また、日本語学習用の資料・会話集なども収集しており、非常に利用が多い。新聞・雑誌については、現在、新聞3紙(中国語・ハングル・ポルトガル語、各1紙)とポルトガル語のフリー雑誌を1点受け入れており、いずれもよく利用されている。

エ ビジネス情報コーナー

コーナー開設から4年が経ち、資料がやや古くなってきたため、名鑑類・資格関連を中心に積極的に資料の更新を図った。また、雑誌架の増設や雑誌の表紙が見やすい保護用ケースへの変更など、雑誌がより利用しやすくなるようにした。

ビジネス関係のコーナー展示に関連した講演会や上映会の開催にも努めた。6月から9月にかけて開催した展示「職業・資格の本」に合わせて行ったセミナー「プロフェッショナル仕事図鑑」では、各界から講師を迎えてその仕事を紹介したが、展示期間中の4回の開催に加え、終了後も2回開催する通年の企画となった。また、12月から開催した「あいちの起業家サポートフェア」は、日本政策金融公庫との共同開催として資料展示とセミナーを行った。今後、展示に限らずいろいろな場面で多くの外部機関と連携して行うことで、幅広い情報提供や活動が展開できることが示されたといえる。

2 市町村立図書館を介したサービスの状況

(1) 協力貸出、市町村立図書館間の相互貸借

20年度の愛知県図書館サービス計画では、前年度に続き特に重点をおいて取り組むサービスの一つとして、「市町村立図書館への支援、県域全体へのサービス」を掲げ、その目標値を「県内の図書館への協力貸出冊数、16,000冊（前年比107%）」とした。

20年度の県内図書館への貸出冊数は、16,019冊となり、かろうじて目標を上回ることができた。町村立図書館への貸出冊数が前年比111%、公民館図書室へは226%と増加したのに比べ、市立図書館への貸出冊数が前年を下回ったことによる。

県外の図書館への20年度の貸出冊数は、2,112冊で19年度の1,987冊に比べ6%増加した。県外の図書館への貸出を含んだ協力貸出の合計は18,131冊（前年比106%）であった。

当館の搬送を利用した市町村立図書館間の相互貸借の冊数は、19年度の29,527冊から20年度30,897冊（前年比105%）と増加している。

(2) 市町村立図書館に対する人的サービス

図書館の設置や新館の建設を検討する市町村に対し、情報の提供や職員の参画を含めた支援を行った。19年度から20年度まで、岡崎市及び瀬戸市の図書館に職員各1名を派遣した。21年度は、岡崎市に派遣した1名の派遣期間を、市の要請により1年延長する。

その他、小牧市立図書館整備計画委員会に委員として職員1名を派遣し、「新小牧市立図書館建設基本計画」の策定に加わった。

市町村立図書館支援の一環として県内各団体主催の研修会へ、職員を講師として派遣した。20年度は県内で実施された研修会等へ延べ14名の講師を派遣した。このほかに埼玉県図書館協会の求めに応じ、職員を講師として1名派遣した。

(3) 大学図書館、高校図書館との連携

愛知、岐阜、三重、静岡県内の公立図書館と大学図書館による館種を超えた連携・協力を進めるため設立された東海地区図書館協議会に理事館として参加している。同協議会の「資料相互利用協定」参加の大学図書館に288件の資料を貸出し、複写2件を受付けた。また、50件の資料を借受け、複写7件を依頼した。名古屋大学、名古屋市立大学、南山大学の図書館と愛知県図書館の間で、18年5月から開始した定期搬送便の実証実験を20年度も継続した。この搬送便を利用した公立図書館から大学図書館への貸出は、433冊（前年比133%）、借受は216冊（同133%）となり、利用は引き続き増加している。

高等学校を中心に、学校図書館への支援サービスを引き続き実施した。高等学校に限定すると、協力貸出冊数は6校183冊であった。他に出張ブックトークを2校で実施し、インターンシップを1校、館内見学を1校受入れた。

(4) 県外図書館との物流ネットワークの拡充

岐阜、三重、富山県に続き、前年度に試行を実施した石川県との間で協定を締結し、4月から週2便の定期搬送を開始した。これにより、福井県を除く東海・北陸ブロックの市町村立図書館とは、送料の負担なしで資料の相互貸借ができるようになった。

協力貸出と相互貸借の冊数推移

